

5月12日の米国株式市場の下落について

物価指標の上振れによる金利上昇を嫌気

2021年5月13日

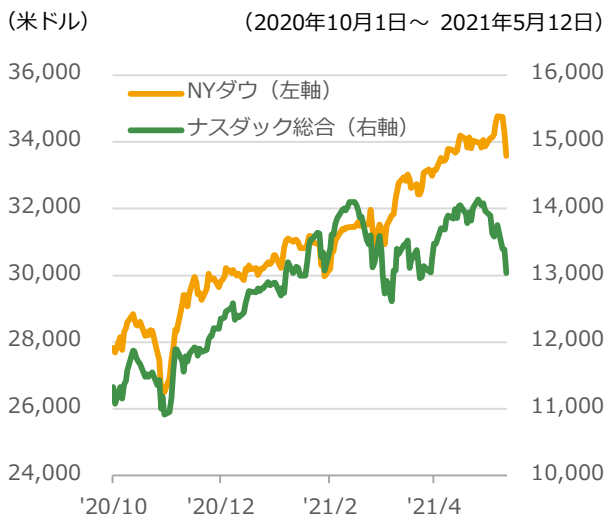
事前予想を上回る消費者物価の伸びを受けて金利上昇・株価下落

5月12日（現地、以下同様）の米国株式市場は、NYダウが1.99%、S&P500指数が2.14%、ナスダック総合指数が2.67%、それぞれ下落しました。

株価下落の主因は、物価指標の上振れによる金利上昇と考えられます。同日発表された2021年4月の米国消費者物価指数は、総合が前年同月比4.2%、コア（食品・エネルギー除く総合）が前年同月比3.0%の上昇となり、いずれも事前予想を大きく上回りました。前年が新型コロナウイルスの影響で落ち込んでおり、その反動があるほか、最近の急速な景気回復による需要の増大や、新型コロナウイルスによるサプライチェーンの制約などから来る一部製商品の供給不足も重なり、物価が上振れたとみられます。

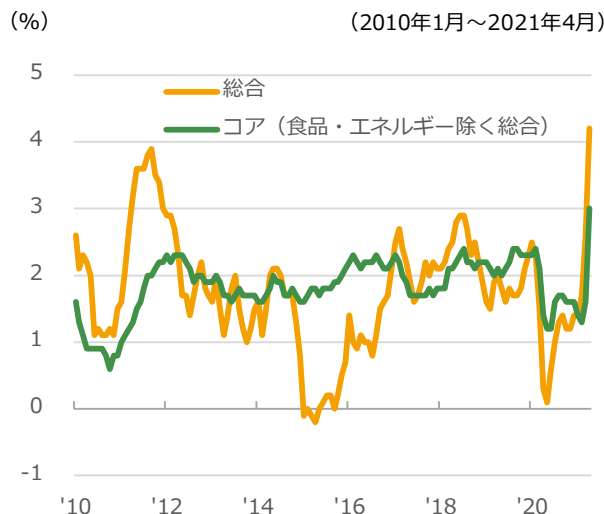
これを受けて、米国10年国債利回りは前日の1.6%台前半から1.7%近くまで上昇しました。物価の上振れで米国の金融緩和政策の見直しが早期化するのではとの思惑が強まったと考えられます。株式市場では低い金利水準の継続を期待して高めのPER（株価収益率）が許容されている面もあるため、金利の上昇には神経質になりがちです。しかし、この時期に物価が一時的に上振れることは、FRB（米国連邦準備制度理事会）も再三指摘しており、これをもって金融緩和政策の見直しが早期化すると考えるのは早計でしょう。当面は物価指標に注目が集まるでしょうが、市場の動揺は沈静化していくと想定されます。

米国株価指数の推移



(出所) ブルームバーグ

米国消費者物価指数（前年同月比）の推移



(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management